

「社会福祉法人ゆうなの会」住民参加型在宅福祉サービスの展開

一、法人・施設の概要

法人名 社会福祉法人ゆうなの会
理事長 神谷幸夫
事業所名 特別養護老人ホーム大名
施設長 神谷幸枝
住所 那覇市首里大名町1-43-2

二、事業の実践概要

①ふれあい給食サービス

首里地区内の一人暮らし老人に対し、毎週木曜日にボランティアの協力を得て友愛訪問を兼ねた給食サービスを行う。

②ふれあい昼食会と健康相談

施設設備と職員の専門技術の提供と、ボランティアの協力による地域の高齢者のふれあいと健康相談を実施。

③サテライトデイサービス

首里地区の6か所の自治公民館で、ボランティアも参加してデイサービスを実施。

三、実践に至った経緯と現状

施設開所当初から「地域とともに歩む」をモットーに施設づくりを行なってきた老人ホーム大名はまさに住民参加

型在宅福祉サービスのパイオニアである。

「地域からの働きかけを待つのではなく、施設の側から地域にかかわっていく」との方針から地域担当職員一人を配置、積極的に地域の会合等に出かけ、地域行事にも率先して参加した。「今では『地域あつての施設、施設あつての地域』ということが何の誇張もなく言えます」と神谷所長は語る。

老人ホーム大名の住民参加型在宅福祉サービス実践の一部は以下のとおり
①地域との緊密なネットワークは昭和61年から続いている週1回の「首里地区ふれあい給食サービス」に顕著に現れている。給食サービスは珍しいことではないが、大名の場合、施設がやるのは調理まで。後は盛付けをボランティアの「あじさい会」が行い、配送ボランティアが17ある拠点に弁当を届ける。この拠点もスーパーや薬局、クリーニング店や個人宅など地域が担っている。最後は友愛訪問ボランティアが、拠点で受け取った温かい弁当を一人暮らしのお年寄りに届けながらユンタクする。これが一人暮らし老人の安

否確認等、生活の見守りにつながっている。

②法人の社会貢献事業として月1回、大名の地域交流ホームで実施している「ふれあい昼食会と健康相談」も地域の高齢者が楽しみにしていて毎回100人ほどが集い、盛りあがる。今では送迎から余興等の企画・運営までを全てボランティアが担っている。併せて実施する健康相談も当初は施設の嘱託医や看護師が担当していたが、今では看護師もボランティアである。

③平成7年から3年間、日本生命財団の助成事業として「支えあい、助け合いのまちづくり事業 いあいんべー大名ぬくぬく」を開始したのがゆうなの会の地域福祉事業を一段と加速した。この事業は高齢者の福祉と健康の増進を目的とし、地域福祉のシステム化を図る先駆的な事業を行なうもの。また、この事業の一環として「リフレッシュ翠の家」を開所した。これは既存の制度・施策の谷間におかれ、適切なサービスを受けられない閉じこもりがちで身体の不自由な在宅高齢者にリハビリ・生活訓練と憩いの場を提供するもの。さらに、翠の家で6か月の機能訓練を終了したお年寄りの受け皿として、久場川公民館で「サテライトデイサービス」も開始した。こうした実践が高く評価され那覇市の委託事業に

結びついた。この事業も多くのボランティアの協力を得ている。現在では首里の6自治公民館で実施されている。

ちなみに、老人ホーム大名には地域住民による地域防災委員会が設置されている。大名の緊急システムが地域防災協力員とホットラインで結ばれていて、火災等の事故の際には緊急システムが作動し、地域防災協力員が駆けつける。老人ホーム大名は「地域の『ホーム』」という意識が地域住民にしっかり根付いている証である。

四、今後の展望

ゆうなの会では、今後、在宅の高齢者が気軽に外出できるよう介護移送サービスや介護保険非該当の高齢者ができるだけ元気に地域で生活できるよう、筋肉トレーニングやパワーリハビリなどを取り入れた「介護予防」にも取り組みたいと意欲的だ。

五、今回のチャレンジに思う

大名地域福祉推進会と年間受入れ述べ5000人というボランティアの活気に支えられて、ゆうなの会は地域の福祉ニーズに先駆的に取り組んできた。施設と地域の双方向のベクトルはさらに大名地域の「福祉力」を高める原動力になることだろう。

沖縄県共同募金会取扱額 98件 3,961,783円

送付先・送金額一覧		
送付先	送金額	被害をもたらした災害
新潟県共同募金会	661,783円	梅雨前線豪雨
徳島県共同募金会	300,000円	台風10号・23号
愛媛県共同募金会	300,000円	台風15・16・21号
香川県共同募金会	300,000円	台風16号・23号
岡山県共同募金会	300,000円	台風16号
宮崎県共同募金会	300,000円	台風16号・23号
広島県共同募金会	300,000円	台風18号
三重県共同募金会	300,000円	集中豪雨
静岡県共同募金会	300,000円	台風22号
兵庫県共同募金会	300,000円	台風21号・23号
京都府共同募金会	300,000円	台風23号
岐阜県共同募金会	300,000円	台風23号

【問い合わせ】沖縄県共同募金会 電話098-882-4353

沖縄県共同募金会

災害義援金を被災地へ配分

12府県へ396万1783円

去る7月13日に新潟県・福井県における「梅雨前線豪雨」に伴う災害が発生し、7月～10月にかけて台風災害等が17件あり、各被災地へ災害救助法が適用されていました。本会より災害義援金募集をお願いしたところ、たくさ

んのご協力を頂きました。皆様からお寄せいただいた義援金は、被災地の県共同募金会等を通して被災者へ配分されることになっています。ご協力ありがとうございました。

ちょっとしたこと

車いす（福祉用具）の変化「車いすの世代交代の時期がやってきた」

～従来型と普及型の利点・疑問点～



介護実習普及センターはあどるるケア

図1 従来型

- 1 利点
 - ・軽い。
 - ・清掃しやすい。
- 2 疑問点
 - ・利用される方の体型に合った対応がなされているか？
 - （日本人体型の標準化として、身長165cmを基準に造られている）
- 3 実際に使用しての注意点
 - ・お尻の部分に何か工夫する方法を考えなければ？
 - ↓皆さん、考えて下さい

図2 普及型

- 1 利点
 - ・利用される方の体型に合った多機能的装備がある。
 - （座面の高さ調整、背もたれ部分の調整、肘掛け部分の調整、乗り降りの際の肘掛け部分が跳ね上がる、足をのせている部分の取り外しができる、お尻の部分にクッションが標準装備されている）
- 2 疑問点
 - ・重い。
 - ・清掃しにくい。
- 3 実際に使用しての注意点
 - ・部分的にはずしたり、跳ね上げたりする事でしっかりとロックを確認し、転倒・転落防止に努める。
 - ・跳ね上げ、取り外しを乗り移りする際にふくらはぎ、足の甲が車いすの引つかからないように注意して下さい。（擦り傷防止につながります）

【お問合せ】沖縄県介護実習・普及センター 電話(098) 882-1484

